



第26回企画展「古墳から火葬墓へ—北部九州における古墳の終焉—」
(会期:平成27年3月10日(火)～5月10日(日))

古墳から火葬墓へ

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

はじめに

3世紀の中ごろに出現した古墳は、亡き首長を手厚く葬る墓であると同時に、生前の政治的・社会的な権威を誇示する記念碑でもありました。全長200mを超える箸墓古墳の築造を嚆矢として全国に築かれた前方後円墳は、その後300年以上、王墓や首長墓として築かれてきましたが、6世紀末に突如築造を停止します。

しかし、それ以降も古墳の築造は1世紀近く続き、最終的な造墓は7世紀末から8世紀初頭ごろまで及びます。古墳の消滅に至るまでの約1世紀の間を古墳文化の「終末期」とし、その間に築かれた古墳を「終末期古墳」と呼びます。

今回は、古墳文化の終焉に焦点を当て、当時の北部九州の様相を紹介します。

1 前方後円墳から方墳の時代へ

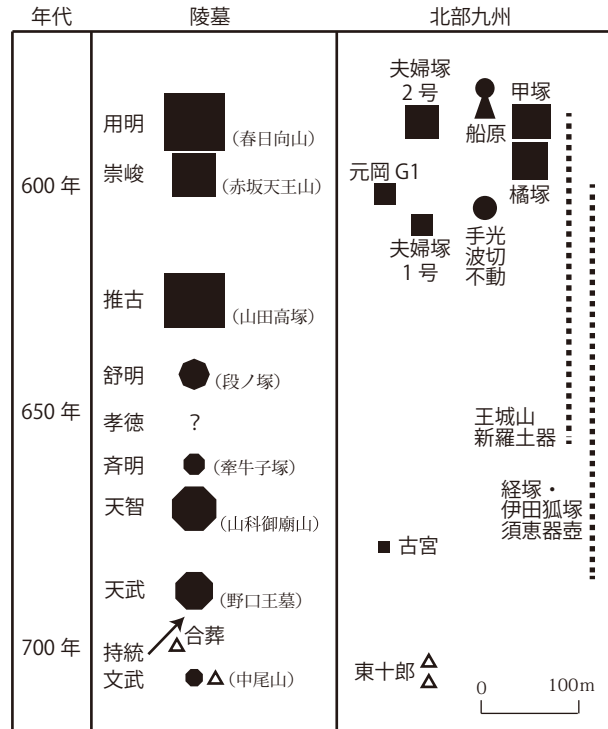
前方後円墳は、王権を構成する王族や有力豪族の墓として、北は岩手県から南は鹿児島県まで列島各地に築かれていきました。

畿内の歴代王墓も前方後円墳でしたが、欽明天皇陵の可能性が指摘されている五条野丸山古墳や平田梅山古墳を最後に、突然前方後円墳の築造をやめます。その後、敏達天皇陵は明確ではありませんが、続く用明・崇峻・推古天皇陵はいずれも方墳で、新たな王墓の形態として方墳が採用されました。

方墳化の波はほとんど時を経ずして列島各地に広



福岡県京都郡みやこ町甲塚方墳遠景(南西から)



まっており、北部九州でも筑前の夫婦塚1・2号墳、豊前の甲塚方墳や橘塚古墳など地域を代表する有力首長墳に採用されました。同様の動きは群集墳でもみられ、より下位の墓制にまで広がっていきました。ただ、円墳の首長墓もあって、その差異は王権との政治的な関係に起因していると考えられます。

2 北部九州における畿内型墓制の影響

6世紀末になると畿内では横口式石槨と呼ばれる特異な構造の横穴系埋葬施設が登場します。一般的な石室は奥に広い埋葬空間がありますが、横口式石槨は棺を置くと一杯になる程度の埋葬空間しかない構造です。そのため、複数人の埋葬を可能とする石室とは異なり、当初から個人墓として造営されたと考えられます。

横口式石槨やその影響を受けた石室は列島各地で散見されますが、地方の場合は畿内の横口式石槨の構造を忠実に再現した事例はあまり多くはなく、地域型の横口式石槨へと変容している場合がほとんどです。

北部九州では、豊後・古宮古墳が唯一横口式石槨そのものの構造ですが、筑前・手光波切不動古墳や同・宮地嶽古墳などは在来の横穴式石室の構造を下敷きに石槨構造を組み込んだ折衷型でした。

ところで、北部九州では6世紀末以降の古墳から鉄釘が出土することがあります。それらは木棺に用いられた棺釘とみられ、鑲座金具などの棺金具が伴出する場合があります。釘使用の木棺は、北部九州では一部の例外を除き6世紀末に突如出現する新たな埋葬方式で、その出現の背景にはすでに釘付式木棺を採用していた畿内からの影響が考えられます。



大分県大分市古宮古墳石槨



福岡県福津市手光波切不動古墳石槨 (福津市教育委員会提供)

3 北部九州と対外交流

589年には隋が中国統一を果たし、618年に後を継いだ唐は強大な中央集権国家を築き、周辺諸国への圧力を強めていきます。高句麗・百濟・新羅など朝鮮三国も互いの命運を賭けた争いを繰り返し、倭をも巻き込む動乱の時代となりました。

そうした中でも新羅土器や百濟土器、高句麗土器など、半島に由来する土器が終末期古墳あるいは集落

遺跡から出土しています。北部九州の場合には地理的条件から、国家的な対外交流だけではなく、一部の有力豪族などによる交流も行われたのでしょうか。

一方、西日本では瀬戸内海沿岸地域を中心に、新羅土器の影響を受けて頸基部に突帯をめぐらせる須恵器壺が出土します。九州では瀬戸内地域に近い豊前に集中する傾向がありますが、新羅土器とは排他的な分布傾向を示し、新羅土器の入手が困難な地域で模倣生産された可能性があります。

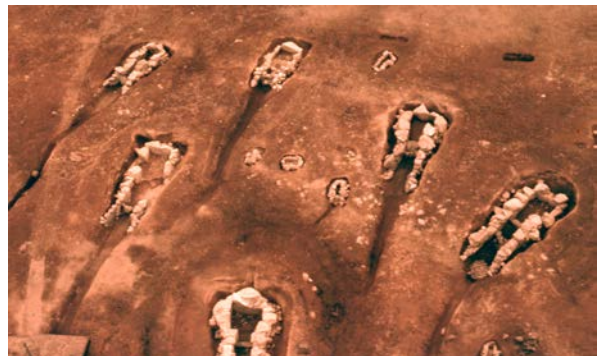
4 古墳から火葬墓へ

7世紀に入ると石室規模が徐々に縮小しはじめ、1人だけを埋葬する個人墓が増えます。とくに7世紀中頃以降は急速に個人墓が増加し、伸展葬が困難なほど極小化した石室もみられ、改葬墓として営まれた事例もあります。首長墓だけでなく群集墳や横穴墓群においても急速な個人墓化や縮小化がみられ、古墳時代墓制全般に共通する現象といえます。

こうした家族墓から個人墓へという墓制の変質に対し、族制的な支配から官僚的な個人支配への変化・浸透を指摘する意見もあります。王権による支配秩序の再編や地域支配の浸透が進むなかで、政治的・社会的な身分表徴としての機能も付与されていた「古墳」は、次第に遺体を埋葬する「墓」へと機能を縮小していったのでしょうか。

そして、律令国家の成立とほぼ時を同じくして古墳は姿を消し、新たに火葬が律令墓制として広まってきました。ただし、終末期古墳と同じ墓域に火葬墓を営む事例や、古墳の石室内に火葬骨蔵器を納置する事例もみられ、旧来墓制の在り方を一部継承しながら新来墓制を受容する様子が窺えます。

(学芸調査室 下原 幸裕)



福岡県筑紫郡那珂川町観音山古墳群中原Ⅲ群



編集 発行：平成27年3月10日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>